

【(1) 学習のルール

①－2 「声のものさしで声の大きさを示している」

《つまずきの背景》

C 記憶力の弱さ、L セルフモニタリングの困難さ、M 自己コントロールの困難さ、Q 状況理解の困難さ

《解説》

声の大きさを段階に分け、視覚的に理解しやすいように“ものさし”で示した、『声のものさし』を提示することで、発表するときの声の大きさが具体的に分かりやすくなります。また、グループでの話し合いや隣の人と相談するときなどの、発表以外の場面でも活用することができ、場に応じた声の大きさをイメージさせやすくなります。

学級の中には、「静かにしようね」「もっと大きな声で」等の言葉掛けでは、どのくらいの声を出せばよいのかイメージが湧きにくく、戸惑う子どもがいる場合があります。「今はグループでの話し合いだから、2の声でね」「学級の人みんなに聞こえるように3の声で発表しましょう」のように、声のものさしを示し、具体的に指示を出すことで、どのくらいの声を出せばよいのかが分かりやすくなります。

『声のものさし』を教室の前面に掲示しておくと、子どもがいつでも確認することができます。

【工夫点】

- ・ 声のものさしを見えるところに掲示する。（小 工夫例3）

◆工夫例3 「声のものさしを見えるところに掲示する」



《小学校》

声のものさしを全教室の前面に掲示して、場に応じた声の大きさがイメージできるようにします。

教師は「学級の人みんなに聞こえるように3の声で発表しましょう」などと具体的に指示を出すことができます。また、子どもが「今は声0の時間だよ」とお互いに言葉を掛け合い、注意し合うことにもつながります。